令和4年度　自己評価計画書(最終報告)

石川県立ろう学校

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1　授業実践力の向上	①手話力を高め、聴覚障害教育の専門性の向上を図る。	○研究研修課 幼小中高等部 寄宿舎	手話力が向上したと思う教員が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	教職員＝90%	講師には各コースにおいて、毎回明確なテーマを設けて講座を進めていただいた。特に中級コースでは手話文法を詳しく学習することができ、日本語に引っ張られないような手話表現を意識したり、日本語の意味を吟味して手話表現に置き換えたりする努力をしている教員が増えてきている。また、初級コースにおいては、語彙を増やしたい、わからない語彙は人に聞いたり、自分で調べたりするようにしているという感想が多く、子供達とコミュニケーションするために前向きに取り組む姿が見られた。 研修講座を手話に限定したことにより、全校で手話力の向上に取り組むことができた。しかし、オーディオロジー等他の聴覚障害教育の専門性に関する研修等は実施することができなかった。手話以外の研修も充実させていくことで、ろう学校の教員としての指導力向上に繋げていきたい。
	②GIGA構想の取組みを取り入れた研修や教材研究を行い、授業力の向上を図る。	○ICT推進委員会 小中高等部	研修や教材研究から得た知識やスキルを授業に活かすことができたと思う教員が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	教職員＝93%	毎月行ってきたICTミニ研修会や日々の職員室での情報交換によって、ICTを活用し、自分の授業に生かせたという回答がほとんどであった。取り組みの例としては、児童生徒の意見の可視化や共有、共同編集や動画の活用等によって児童生徒の学びを深めることに活用できたようである。また、昨年度より継続して使用し、使い方なども研修の内容として取り上げてきた「ロイロノート」を活用した取り組みを挙げた教員の割合は41%であり、本校においてはロイロノートを使って児童生徒の基礎基本の定着や学びを深めるための活用が定着しつつある。一方で、小学部低学年や重複学級では、ICTを活用して思考を深めたり、意見を共有したりする活用が難しいといった回答もあった。児童生徒の実態に合わせた効果的で学びが深まるような活用の仕方を考える場を設定することが必要である。
			学習場面でICT端末を使って課題解決に向けて取り組めた児童生徒が、 A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	児童生徒＝84%	ほとんどの児童生徒が学習場面でICT端末を使って課題解決に取り組めたと回答した。一方で、あてはまらないと回答した児童生徒が16%を占めており、今後も研修等で児童生徒の実態に合わせた様々な活用の仕方を学んだり、情報共有したりできる場を設定することが必要である。
学校関係者評価委員会の評価		・GIGA構想が始まったが変わらないものがあると思う。職員室等での教員間のコミュニケーションで考えを出し合い授業力向上に向け自分たちで研究を行うことが大切。コロナの影響で教員間のコミュニケーションが薄れ子どものことが話し合えなくなってきている。日頃の何気ない教員同士の会話ができるとよい。研修により専門性の向上が見られたのはよい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・引き続き専門性を高めるために研修を継続するとともに、子どもたちのことや授業について教員が考えを出し合ってコミュニケーションを深める場を設定することを通して、授業力を高めていきたい。			
2　安心・安全な学校づくり	③SNSやオンラインゲーム等において保護者が捉えている課題とその解決に向けた工夫を学校と共有するとともに、安全にインターネット等を使用する手だてを情報共有し連携して取り組む。	○指導課 幼小中高等部 寄宿舎 小中高等部保護者	保護者のニーズを踏まえてSNS等の指導ができたと思う教員が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	教職員＝98%	日々の連絡帳や登下校時のお話、懇談等、保護者と日頃から様々な機会を通して、子どものことについて情報交換・共有、相談しながら、学校生活全般で指導することができている。児童生徒の実態や課題についても保護者、教員間で共有することができている。課題として、SNS等インターネットの普及はめまぐるしく、つねに新しいアプリ等が表れ、それらに関わるトラブルや課題も生まれてくる。それらインターネット等に関わる新しい知識を学び理解し、指導に活かしていくことが求められる。子どもたちがトラブルに巻き込まれず安全にインターネットを利用できるよう、引き続き、保護者と連携しながら子どもたちへの指導に当たっていくことが大切である。
			SNSやオンラインゲームに関する課題が改善したと回答した項目が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	児童生徒＝85%	概ね時間やルールを守って、利用できているという回答だった。アンケートや懇談等から分かった保護者のニーズを踏まえ、2学期末にオンラインゲームやSNS、インターネット利用にあたっての指導を子どもの発達段階や実態に合わせて、小中高各部でそれぞれ実施できた。今後はオンラインゲームやSNS、インターネット利用にあたっての指導を子どもの発達段階や実態に合わせて引き続き、指導していくことが大切である。また、今年度も中高等部でライン、インスタグラム等でのトラブルが見られた。インターネットを利用するにあたって心掛けること等の指導を具体的な事例等を通して、繰り返し指導していくことが求められる。
			学校とともに課題を共有し考えることを通して改善に向けてのヒントが見えた保護者が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	保護者＝85%	「安心安全な学校づくり」を目指し、子どもの実態や家庭でのインターネット等の使用に関する課題をアンケートで確認することができた。それを活かし、夏休み中に育友会と共催で講演会を実施することができた。また、各学期末懇談で保護者と意見交換、相談と子どものことを共有することができた。今後もインターネットの安全利用について、引き続き、保護者と子どもの課題について情報等を共有しながら、連携して取り組んでいくことが大切である。しかし、保護者の意見から家庭でのルールを決めても実行できていないケースも見られ、学校でより具体的な事例や体験等を通して、子ども自身がインターネットを安全に使う意識を持てるような指導を考えていくことが求められる。
学校関係者評価委員会の評価		・SNS等の使用の根底として情報モラルが大切であるが、昨今は抜け落ちている。情報モラルの教育が必要。中学生から携帯を持つようになってきた。便利なツールであるので、どんどん使用したらよいが、一旦立ち止まって情報モラルについてふりかえり見直すとよい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・SNS等は本校の子どもたちにとっては必要なツールである。子どもたちが便利さを知って活用していきながらも、情報モラルの視点をもって使用できるよう指導を継続する。家庭とも情報モラル等の問題を共有し連携を図っていく。			
3　キャリア教育の推進	④本校キャリア教育全体計画と個別の教育支援計画の目標及びキャリアパスポートとの関連付けを行い、個々のキャリア発達を促す。	○進路指導課 小中高等部 幼保護者	【満足度指標】 キャリアパスポートの活用や授業等においてキャリア教育の視点をもって指導する。	教職員＝90%	・キャリアパスポートの活用が初年度ということで手探りな部分もあるが、教員間で使い方の情報交換を行って活用できていた。 ・キャリアパスポートは記入だけでなく、自己理解を促す目的で読み直す活動は、今後も継続して行っていく必要がある。また、少数ではあるが普段の指導がキャリア教育に含まれている認識がもてていない回答も見られた。今後は、担任間だけでなく、全教員間でキャリアの視点を共有する機会を増やしたり、キャリアパスポートの活用例を紹介していったりする必要がある。
			【成果指標】 授業やキャリアパスポートの作成及び活用を通して、キャリア教育の視点で自分の目標を意識できた。	児童生徒＝76%	・概ね、キャリアパスポートを活用して自分の目標を意識できたと回答する児童生徒が多かった。 ・低学年の一部児童にとっては、自分で確認することが難しい面があった。日頃の活動の中で自分の目標について確認する機会を持つことを今後も継続していく。
			【満足度指標】 懇談時等に担任から、キャリア教育の目標に対しての子の成長についての説明を受け、成長を確認できた。	保護者＝100%	幼稚部の担任からわかりやすくキャリア教育に関する説明がされている成果が表れている。
学校関係者評価委員会の評価		・コロナ禍でその年齢ですべき体験がすっぽり抜けてしまい、失った影響は大きい。いじめ、不登校に表れている。コロナ禍以前に近い様々な活動ができていてよかった。授業では得られない体験は友達同士の関係を深める意味でもよい。いろいろな行事や修学旅行を先生たちも引率で一緒に見たり体験したり楽しむことが大変良いことだと思う。子どもたちに先生たちの様子を見せることが模範になる。子どもたちと一緒に聞こえないことも理解した上での支援してほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・次年度は感染症対策の緩和が進むことを受け、今年度以上に様々な体験学習を行うことで児童生徒が友達関係を深め、自分の役割や目標を果たす意識をもって取り組めるようにする。その足跡をパスポートで児童生徒が確認できるように活用する。			
4　業務改善	⑤マニュアルを基に平準化や効率化を目指し業務を遂行する。	○校務会 幼小中高等部 寄宿舎	スケジュールやマニュアルを基に業務の平準化と効率化を意識できたと思う教員が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	教職員＝81%	スケジュールやマニュアルを基に業務の平準化と効率化を意識できたと思う教員が増えた。平準化を意識した校務分掌の分担は概ね上手く機能したと考えられる。 年度末に出された課題を検討し次年度に生かしていく過程で、職員の共通理解を図るとともに、担当業務の偏りや人員配置については全体的なバランスを考慮して調整が必要である。年度末の反省ではいくつかの具体的な改善案が出されたので、適宜検討し、来年度の体制を考えていく。課や委員会の枠を越えての協力体制についても進めていく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		・子どもたちに向き合うことが一番大事である。働き方改革ということもあるが、保護者を巻き込み地域の活動などに参加できるような声をあげていってほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・教員が意欲をもって業務を行えるよう、互いに協働する気持ちで業務を推進し、業務改善によって子どもたちに向き合う時間の確保につなげたい。また、機会を捉えて地域や育友会ならびに関係機関に働きかける。			